

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
長野市	26 七二会地区	令和3年3月16日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	123.20 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	100.17 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	56.21 ha
i うち後継者未定(目処はついている)の農業者の耕作面積の合計	3.14 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	53.07 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	1.43 ha

2 対象地区の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・地区全体において、高齢化が進み、後継者・担い手の確保が困難である。 ・不在地主の増加に伴い、農地の荒廃化が進み、野生鳥獣による農作物への被害拡大につながっている。 ・急傾斜地等が多く、機械化が進まないことから、農地の集約・集積化には、区画整理やため池整備など基盤整備事業が必要である。 ・新規就農者が移住しやすい環境(農地・住居)づくりが必要である。 ・今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積よりも、70歳以上で後継者不明の農業者の耕作面積の方が多く、新たな受け手の確保が必要である。
--

※ 地区の話し合いにおいて出された意見を基に「地区の課題」を作成

3 対象地区内における中心経営体(担い手)への農地の集約化に関する方針

<p>当面は、現在の耕作者が営農を継続するが、将来的には中心経営体を中心に実情に応じ担い手を選出するほか、新規就農者の育成や入作を希望する認定農業者等の受入れを促進することで対応していく。</p>
--

※ 現在、中心経営体(担い手)として人・農地プランに掲載されている人数： 5人

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

<p>○基盤整備事業に関する取組方針 狭小な農地が多く、農業の生産効率の向上を図るため、農地の区画整理や農道、用排水路の新設・改修及びため池の整備など基盤整備事業の実施について検討する。</p>
<p>○野生鳥獣による被害防止対策の取組方針 耕作放棄地の増加や山林化に伴い、野生鳥獣による農作物への被害が拡大していることから、農地周辺の山林の手入れや耕作放棄地の草刈りなど、多面的機能支払制度等の活用も含めた環境整備対策について検討する。</p>
<p>○新規就農者の受入れに関する取組方針 新規就農者の受入れを促進するため、将来的な農地の利用方針や空き家に関する情報収集と所有者の意向確認を行うとともに、比較的条件の良い遊休農地の維持管理を実施するための組織づくりについて検討する。</p>
<p>○地域基幹農作物の選定と高付加価値化への取組方針 地域の風土や気候に適した農作物を選定し、減農薬・減化学肥料を基本とした栽培に取り組むことで、農作物の高付加価値化を図り、販路の拡大につなげるための取り組みについて検討する。</p>

※ 「2 地区の課題」を解決するため、及び「3 中心経営体(担い手)への農地の集約化に関する方針」を促進するために必要と思われる地区の取り組みについて記載